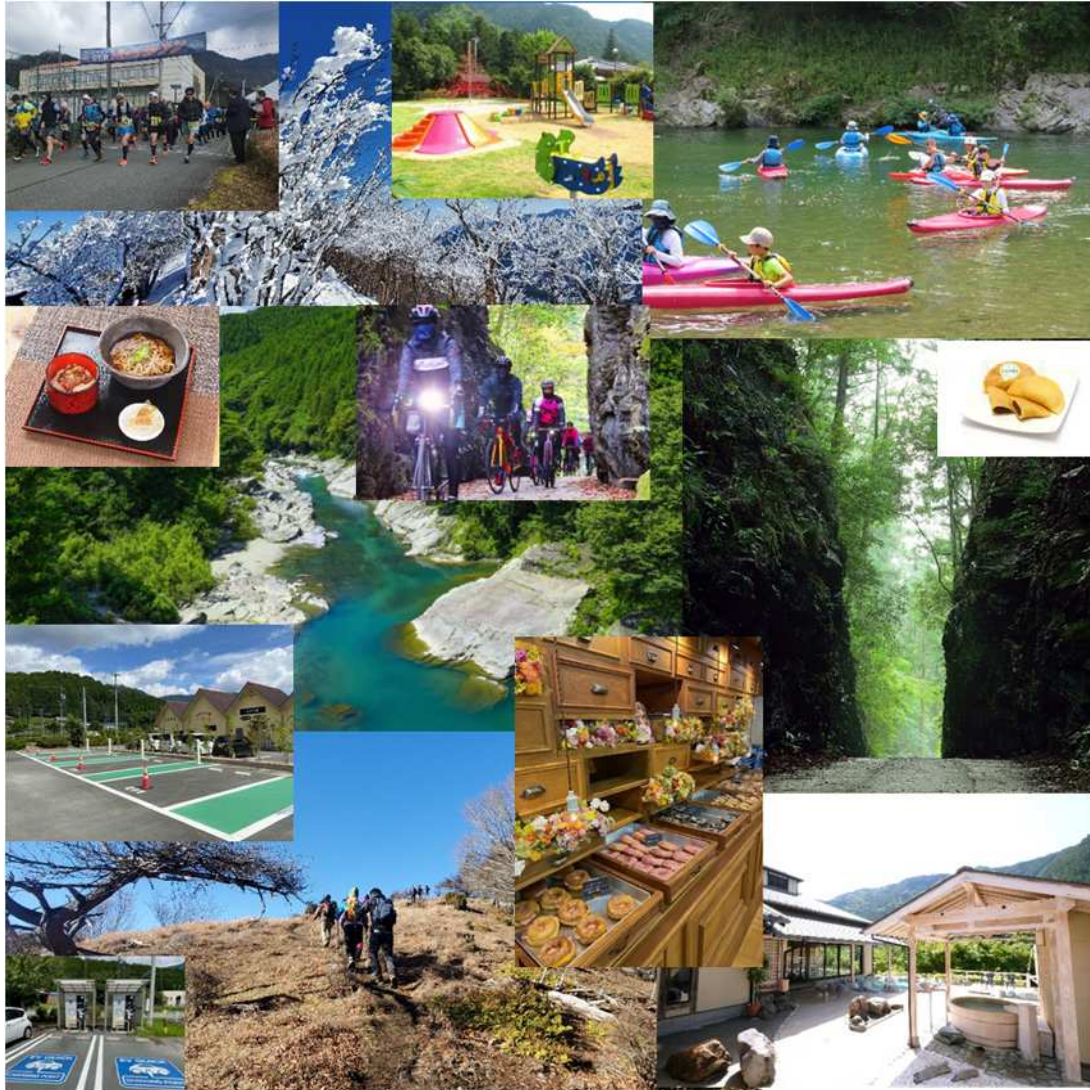


# 道の駅「飯高駅」活性化ビジョン 【2023(R5)年度～2029(R11)年度】



令和6年10月  
松阪市

# 目次

<b>はじめに</b>	1
(1)ビジョン策定の趣旨	1
(2)計画の位置づけ	1
(3)計画期間	1
<b>1. 道の駅の背景</b>	2
<b>2. 道の駅「飯高駅」の現状と課題</b>	3
(1)雇用状況	3
(2)農産物等の出荷会員と生産者グループ	3
(3)入込み客数と売上額の推移	4
(4)これまでの活性化の取組み	5
(5)今後の課題	8
<b>3. 活性化ビジョンの柱となる基本的理念と目標</b>	9
(1)基本的理念	9
(2)目標	9
<b>4. 目標を達成するための具体的な8つの方策</b>	10
<b>5. まとめ</b>	12
<b>6. 道の駅「飯高駅」活性化ビジョン策定経緯</b>	13

# 道の駅「飯高駅」活性化ビジョン 【2023(R5)年度～2029(R11)年度】

## はじめに

### (1)ビジョン策定の趣旨

道の駅「飯高駅」は松阪市を東西に走る国道 166 号沿いにあります。関西圏や県内を中心に年間 35 万人の来訪者があり、人口減少が著しい過疎地域である松阪市飯南・飯高地域の観光拠点および地域活性化の拠点となっています。

これまで市は最上位計画である「松阪市総合計画」(令和 3 年 2 月)を基に、「松阪市観光振興ビジョン」(令和 3 年 3 月)、「松阪市過疎地域の持続的発展計画」(令和 3 年 10 月)などを策定し、観光施策や地域振興施策を進めてきました。

また、将来的な施設の管理運営の方向性については「松阪市 飯南・飯高地域観光施設のあり方に関する答申書」(平成 26 年 3 月)に従い、施設マネジメントを進めてきたところです。

現在の道の駅「飯高駅」は2004年(平成 16 年)の開業以来、お客様の利便性の確保や時代のニーズに応えるため、さまざまな施設整備や地域との連携事業を行ってきました。近年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、入込み客がコロナ前と比較して3割近く減少する事態となりましたが、アフターコロナの時代を迎える中、これまで落ち込んだ入込み客の回復と次の世代への新たなニーズや課題を洗い出し、誘客につなげていくことが急務となっています。

そこで、これまで策定された計画の考え方を踏襲しつつ、将来にわたり、この道の駅「飯高駅」が地域とともに、地域振興の拠点として持続的に発展することを目指し、『道の駅「飯高駅」活性化ビジョン』を策定しました。



### (2)計画の位置づけ

このビジョンは、松阪市の上位計画である松阪市総合計画で描かれた10年後の将来像「～明るいわ！楽しいわ！松阪やわ！～」の政策「活力ある産業」、施策「観光・交流の振興」に位置づく計画です。

また、「松阪市観光振興ビジョン」、「松阪市過疎地域持続的発展計画」や「松阪市飯南・飯高地域観光施設のあり方に関する答申書」との整合性を図りました。

### (3)計画期間

#### 令和5年度から令和11年度

※ただし、社会情勢等の変化により随時見直しを行います。

# 1. 道の駅の背景

道の駅「飯高駅」は、現在の飯高茶屋で1990年(平成2年)に地域の特産品販売所として営業が始まりました。それから3年が経過した1993年(平成5年)、当時の建設省(現:国土交通省)は、全国の103か所の施設を「道の駅」として登録したことが「道の駅」のはじまりとされています。道の駅「飯高駅」はその103か所の一つとして、当時は三重県唯一の道の駅として登録されました。

現在の道の駅「飯高駅」は2004年(平成16年)に元々の「飯高駅」の建物に隣接して新築された2代目の建物となります。この2代目の道の駅は2004年(平成16年)11月に温泉施設やレストラン、案内事務所が第一期としてリニューアルオープンしました。また、それまでは町直営であった運営を、当時の飯高町(現:松阪市)と地元住民がお互い資本金の50%を出資し、株式会社飯高駅を立ち上げ、第3セクターでの運営を始めました。そして翌年2005年(平成17年)4月に特産品農産物等販売所と体験施設が第二期としてリニューアルオープンし、現在の道の駅「飯高駅」が誕生しました。

また国内に目を向けると、全国の道の駅は、2000年代頃にかけて、『通過する道路利用者のサービス提供の場』として、着実に全国各地に広がっていきました。2013年(平成25年)頃になると、各地でさまざまな地域活性化を目的とした施策が取り組まれていく中で『道の駅自体が目的地』という傾向が全国各地に広がり、道の駅が地域の観光施設の拠点として第2ステージに入ったといわれています。

さらに2020年(令和2年)頃になると『地方創生・観光を加速する拠点』に加えネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献する施設としてさらに磨きがかかってきました。近年では道の駅の3つの機能(休憩機能・情報発信機能・地域連携機能)に加えて、防災拠点や地域の交流拠点に活用するなど、地方創生に向けた、取り組みが各地で加速しています。

現在、道の駅は全国に広がり2024年(令和6年)8月7日時点の全国登録数は、1,221か所となっています。

## ◆「道の駅」の目的と機能(※国土交通省HPより)

○目的 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供  
地域の振興に寄与

○基本コンセプト

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



## 2. 道の駅「飯高駅」の現状と課題

### (1) 雇用状況

人口減少や少子高齢化が急速に進む本地域においては、担い手(人材)の確保が年々困難な状況になってきています。このため、職場環境や働き方の改善を進め、「効率的な業務」、「魅力ある職場づくり」、「人材の育成」などに取り組んでいく必要があります。

(単位:人)

部署	社員	パート・アルバイト	計
レストラン	2	13	15
温泉館	3	19	22
いいたかの店	4	6	10
事務所・交流館	2	6	8
公園管理	0	1	1
味楽工房	0	1	1
波瀬駅	0	3	3
合計	11	49	60

2024年(令和6年)4月1日現在

### (2) 農産物等の出荷会員と生産者グループ

本地域では1990年(平成2年)の特産品販売所開設から30年余りが経過する中、長年にわたり農産物や特産品の品揃えを支え、地域雇用、地域経済の活性化に深く関わってきた出荷会員や生産者グループの方たちが今もなお、活躍されています。

今後も、高齢化・後継者不足などの課題を抱えながらも新たな生産者の確保や特産品の開発を進めながら、販売所の充実を図っていく必要があります。

委託販売会員数	会員数	単位
個人会員	189	人
グループ・法人会員	57	グループ・法人
合計	246	

2024年(令和6年)4月1日現在



▲飯高駅名物「でんがら」



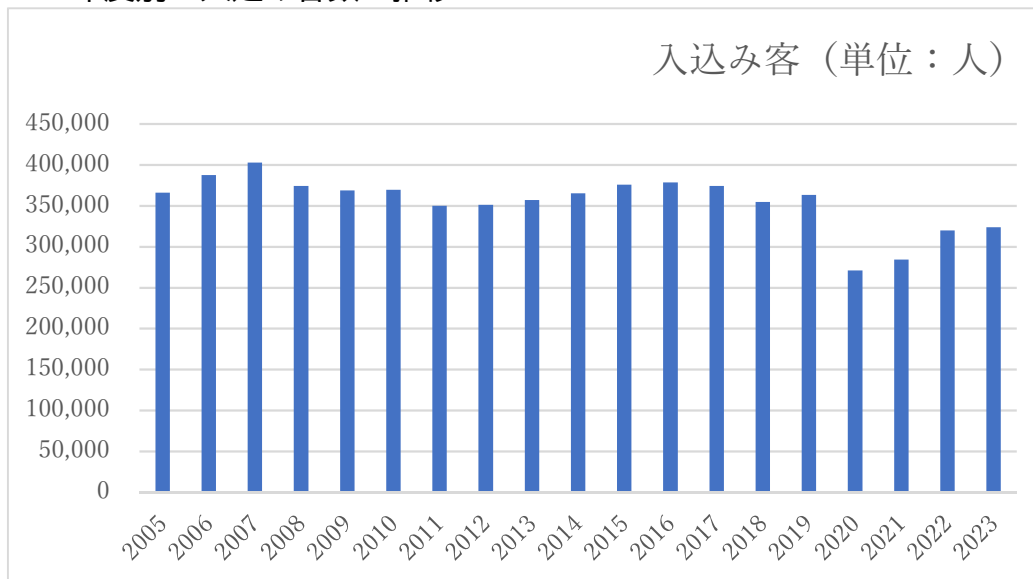
▲いいたかの店(特産品農産物等販売所)

### (3)入込み客数と売上額の推移

下に表した2つのグラフからは一見すると入込み客は年間約35万人、売上額は約3億円で長年に亘り、安定しているように見てとれるが、時代とともに来訪者のレジャーの楽しみ方、長距離移動の手法、施設に求められる対策は日々変化してきています。それらのことに対応しながら、新型コロナウイルスの感染拡大で落ち込んだ入込み客を回復させることが喫緊の課題となっています。

また、駅の経営自体を民間主体の経営にシフトさせながら公的な支出を削減することも、長年の課題となっています。

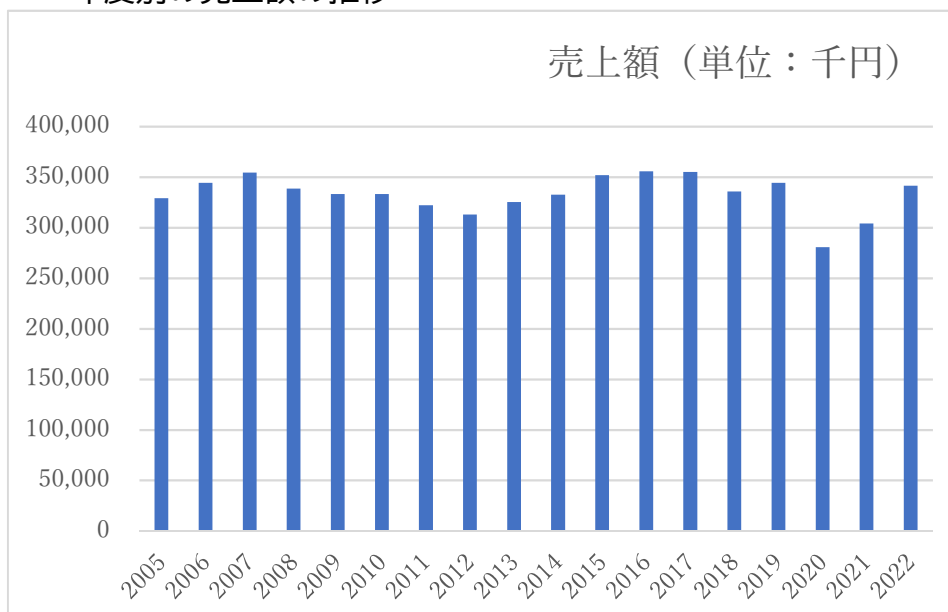
#### ・年度別の入込み客数の推移



これまでの最高入込み客数 2007年(平成19年)402,739人

これまでの最低入込み客数 2020年(令和2年) 271,060人

#### ・年度別の売上額の推移



2023年(令和5年)からのインボイス制度導入により売上額の計算方式に変更があったため、2022年度(令和4年度)までの売上額を上図に示した。

改めてインボイス制度導入後の売上額を下図に示す。

参考として2022年度(令和4年度)以前の売上額の計算方式で2023年度(令和5年度)の264,758千円を比較すると、2023年度(令和5年度)の売上額がこれまでの最高売上額となる。



#### (4)これまでの活性化の取組み

飯高駅では開業以来、施設利用者のさまざまなニーズに応え、施設利用者の利便性の向上に努めてきました。また、イベントやキャンペーン、新たな特産品を開発・販売することで、施設の魅力向上に努めてきました。

今後も、来訪者や時代のニーズを捉え、施設の環境整備や施設の特徴を活かす取組を進めていく必要があります。

##### ・年度別の施設整備等の状況

取組時期	取組内容
2005年(平成17年)11月	もみほぐし 開業
2008年(平成20年)2月	飯高駅 案内看板 設置
2012年(平成24年)6月	災害時対応自販機 設置
2013年(平成25年)10月	赤い羽根募金 自販機 設置
2014年(平成26年)7月	道の駅Wi-Fi 設置
2016年(平成28年)2月	EV用急速充電器(2基)設置
2016年(平成28年)2月	レストラン 店内拡張
2017年(平成29年)4月	電子式加熱タバコ(ICOS)エリア 設置
2017年(平成29年)7月	アイスクリーム自販機 設置
2018年(平成30年)3月	レンタサイクル(5台)貸出開始
2018年(平成30年)7月	水遊び場(ちゃぷちゃぷ広場) 開設
2018年(平成30年)9月	サイクルスタンド 設置

取組時期	取組内容
2019年(平成31年)3月	櫛田川展望デッキ 設置
2019年(令和元年)10月	QRコード決済 開始
2020年(令和2年)4月	新源泉 供給開始
2020年(令和2年)11月	防犯カメラ 設置
2023年(令和5年)4月	RVパーク(5台分)・ドッグラン 開設
2024年(令和6年)1月	「いいたかの湯」温泉館に授乳室 設置
2024年(令和6年)4月	味楽工房内にBOUQUET IITAKA 開業



▲授乳室(2024年)



▲BOUQUET IITAKA(2024年)

・年度別のさまざまな取り組み

取組時期	取組内容
2005年(平成17年)4月	飯高町観光マップ 発行
2006年(平成18年)4月	オリジナル営業カレンダー 発行
2006年(平成18年)7月	飯高駅 創業祭 開催
2006年(平成18年)10月	飯高駅 感謝祭 開催
2008年(平成20年)5月	ホームページ 開設
2008年(平成20年)7月	オリジナル 道の駅記念きっぷ 発行
2009年(平成21年)3月	クシタニ・コーヒープレイクミーティング 開催
2009年(平成21年)4月	四季替り「季節限定メニュー」 販売開始
2010年(平成22年)10月	「どいなか寿司」 販売開始
2012年(平成24年)4月	珍布峠ウォーキングイベント 開催
2012年(平成24年)4月	三重交通バス提携 珍布峠イベント 開催
2013年(平成25年)3月	ホンダドリーム三重 道の駅ポイントラリー 開催
2013年(平成25年)9月	三重県公共温泉「ゆら〜り湯ラリー」 参画
2014年(平成26年)3月	珍布峠ウォーキングガイド 発行



取組時期	取組内容
2014年(平成26年)3月	クシタニ・コーヒーブレイクミーティング スタンプラリー 開催
2014年(平成26年)12月	天気・道路情報ブログ 開設
2015年(平成27年)1月	月替り「松花堂弁当」販売開始
2015年(平成27年)4月	いいたかの湯 スタンプカード 発行
2015年(平成27年)9月	新日本歩く道紀行100選「歴史の道」認定
2016年(平成28年)4月	「もみじ(鹿肉)カレー」販売開始
2017年(平成29年)7月	「松阪牛ハンバーグ定食」販売開始
2017年(平成29年)10月	「鹿肉丼」販売開始
2018年(平成30年)3月	波瀬ウォーキングガイド 発行
2018年(平成30年)9月	サイクルチャレンジ 開催
2019年(平成31年)1月	飯高駅 産直ブログ 開設
2019年(令和元年)9月	香肌峡・東吉野・宇陀広域マップ 発行
2019年(令和元年)12月	洞窟きのこと 販売開始
2020年(令和2年)6月	「伊勢うどん」販売開始
2020年(令和2年)12月	道の駅カード&記念指定券 販売開始
2021年(令和3年)3月	源泉水 販売開始
2021年(令和3年)6月	日本野鳥の会 ツバメ保護感謝状 授与
2021年(令和3年)10月	労働局 安全衛生努力賞 受賞
2022年(令和4年)2月	四季替り「蓮ダムカレー」販売開始
2022年(令和4年)8月	「まつさか香肌イレブン缶バッジ」販売開始
2023年(令和5年)3月	「珍布峠焼き」販売開始
2023年(令和5年)3月	「松阪牛定食」販売開始
2023年(令和5年)4月	入湯料・体験料 料金改定
2023年(令和5年)4月	春の珍布峠クイズウォーキング 再開
2023年(令和5年)4月	「松阪牛定食」販売開始
2023年(令和5年)7月	ブルーベリージュエリー 販売開始
2023年(令和5年)7月	飯高駅 創業祭 開催
2023年(令和5年)8月	珍布峠てぬぐい 販売開始
2023年(令和5年)10月	秋の珍布峠クイズウォーキング 再開
2023年(令和5年)10月	名古屋学院大学「教育型インターンシップ」開催
2024年(令和6年)4月	三重・奈良・和歌山「道の駅」スタンプラリー取り扱い開始

取組時期	取組内容
2024年(令和6年)4月	珍布峠そば(セット) 販売開始



▲松阪牛定食  
(2023年)



めずらしとうげ  
▲珍布峠焼き  
(2023年)



めずらしとうげ  
▲珍布峠そばセット  
(2024年)

## (5) 今後の課題

道の駅「飯高駅」は2024年(令和6年)、開業20周年を迎えました。この間、地域住民や地域団体等の道の駅への関りは年々増加し、「地域雇用」、「農産物の出荷」、「特産品の生産・開発」、「珍布峠の魅力発信」、「まつさか香肌イレブンプロジェクト」など地域経済の好循環をもたらす成長戦略の強力なツールとして道の駅は着実に地域活性化の拠点施設として発展してきました。

今後も、本地域の人口急減・超高齢化という課題に向き合いながら、道の駅を地域の拠点として地域の活力を維持し、時代のニーズを汲みながら観光振興や地域振興を着実に実行し、交流人口増加や定住促進を図っていく必要があります。

### ◆道の駅の3つの機能+地域の交流拠点

#### 休憩機能

- ・高齢者や障害のある方、小さい子どもを連れた方などが安心して利用できるような時代に即したトイレ整備や休憩スペースの整備が必要です。
- ・宿泊施設や駐車スペースを整備することで長距離移動でのドライバーの疲労を緩和し、効率的な長距離移動や長旅のニーズに対応できる施設整備が必要です。

#### 情報発信機能

- ・HPやSNSなどを通じ、最新のイベント情報や季節の特産品、地域の見どころなど、具体的で鮮度の高い情報を発信することが必要です。
- ・自然災害や工事・事故による通行規制や路面凍結など、ドライバーの安全を重視した効果的な情報発信が必要です。

#### 地域連携機能

- ・地域の生産者やグループ・団体等と連携して特産品の開発や普及宣伝、各種イベントを実施し、本地域の交流人口を増やすことが必要です。

- ・香肌峡の豊かな自然を守る環境活動や、166号沿いの環境美化活動を地域と連携しながら進めていくことが必要です。

#### 地域の交流拠点

- ・上記、道の駅としての3つの機能に加え、地域住民や地域団体が趣味の発表や手作り作品の販売などを行う場として駅を利用することで、住民間の交流や駅の来訪者との交流が活発に行われることが期待されています。
- ・芝生公園や温泉施設は地域内の子育て世代や高齢者・シニア世代などさまざまな世代の方に利用され、地域の交流の場になっています。特に温泉施設は定期的に利用される方も、相当数いる中で地域内の利用者の意見を聞きながら、地域の交流拠点として施設整備を進める必要があります。

### 3. 活性化ビジョンの柱となる基本的理念と目標

#### (1) 基本的理念

『道の駅「飯高駅」は、地域とともに香肌地域の豊かな自然を守り、新たな交流や出逢いの場を創出し、地域社会の持続的な発展に貢献していきます。』

#### (2) 目標

ビジョンへの取組に対する目標や方向性をより明確にするため、ビジョンの達成状況を客観的に評価できる目標値を設定します。

年間入込客数 400,000人

年間売上額目標 300,000千円

※R5年度のインボイス制度導入で計算方式が変更になったことにより、R6年度、目標額を変更

## 4. 目標を達成するための具体的な8つの方策

道の駅「飯高駅」活性化ビジョンを実現するために、次の8つの方策を推進します。

①地域資源・特色を活かしたイベントの実施

②地域団体・関係機関との連携機能の強化

③施設の受け入れ態勢の整備

④情報発信の強化

⑤観光人材の育成

⑥農産物の普及と特産品の開発

⑦施設の維持管理

⑧自然環境の保全と  
景観・美化活動

### ① 地域資源・特色を活かしたイベントの実施

- ・香肌地域の豊かな自然を活かした、さまざまな地域イベントに対し、主催者と連携を行いながらイベントを盛り上げ、集客につなげていきます。また、これらに関連したキャンペーンなども併せて行っていきます。
- ・四季折々の花々のPRや休耕田などに、花を植える活動の支援を行うことで、地域の魅力を高め、香肌地域のブランド強化を図ります。

#### ■今後実行していく地域イベント

(登山イベント、カヌー体験、ウォーキング大会、トレラン大会、サイクリングイベント、バイクイベント、農林業体験、手作りマルシェ、フリマ、コンサート、温泉イベント、移住イベント等)

### ② 地域団体・関係機関との連携機能の強化

- ・住民自治協議会や市民団体と積極的に連携を行い、「珍布峠ウォーキング」や「まつさか香肌イレブン」の普及PRや関連グッズの開発・販売を実施します。
- ・観光会社やイベント業者と連携を行い、団体客の受入れやさまざまなイベントのスペースを積極的に提供します。
- ・近隣市町などと連携し、イベントのPRやキャンペーンの周知など、人の動きが活発に行われるよう、取り組んでいきます。
- ・近隣の宿泊施設や観光施設等と連携を行いながら、本地域への来訪者の滞在時間を延ばしていきます。
- ・地元の小中学校、県立飯南高校が実施する探究活動や職場体験などの受入れを行い、将来にわたり関係人口となりうる年齢層との連携を行います。

#### ■連携を図る地域団体・関係機関

(宮前まちづくり協議会、NPO法人i siera、いいたか山里協同組合、松阪市観光協会、飯高産業振興センター販売組合、エバーグレイズ香肌峡、つつじの里荒滝、山林舎、ホテルスメール、宮前小学校、飯高中学校、県立飯南高等学校Vツインカフェ、BOUQUET IITAKA、松阪市香肌地域づくり協同組合など)

### ③ 施設の受け入れ態勢の整備

- ・幹線道路や道の駅に宿泊施設を整備することで長距離移動でのドライバーの疲労を緩和し、効率的な長距離移動や長旅のニーズに対応できる施設整備を進めていきます。また、宿泊施設とBBQスペースを併せて整備し、地域におけるアウトドアレジャーの幅を広げることで、「食」や「体験」に関するセット商品を開発し、交流人口を増やしていきます。
- ・障がいがある方や介護が必要な高齢者の方でも安心して利用できるお風呂や施設内の整備を進めます。
- ・味楽工房(そば打ち体験スペース)の有効的な活用を検討し、売り上げ額の増加につなげていきます。また、施設内の空きスペース、屋外テラスも同様にキッチンカーやポップアップストアなど、期間を限定した物産販売にも取り組んでいきます。
- ・バイク、大型車、普通乗用車などの利用者がストレスなく駐車していただくために各種駐車場の確保・増設を検討します。
- ・インバウンド需要にも対応できるよう、多言語の案内板、ウェブサイト、パンフ、地図の整備を進めます。
- ・いたかの店の店舗レイアウトや販売商品の見直しを行い、新たなテナントに集まる若い世代を取り込む、店舗運営を行います。また、農産物の展示スペースを改善し、商品の充実を図ります。
- ・レストランいたかの慢性的な人員不足を補うため店舗レイアウトの変更や新しいオーダーシステムの導入を検討します。

#### ■具体的な施設整備

(宿泊施設の整備、家族風呂の整備、味楽工房の活用、屋外テラスの活用、遊具の更新、親水広場の整備、バイク駐車場の増設、大型車・普通乗用車などの駐車場の確保・整備、臨時駐車場の案内板設置、新オーダーシステムの導入、店舗レイアウトの変更、多言語対応の案内板など)

### ④ 情報発信の強化

- ・ふるさと納税の返礼品など、地域の特産品の販路を拡大し、顧客の獲得と売り上げ額の増加を目指します。
- ・さまざまな広告媒体を用い、効果的な広告・PRに努めていきます。
- ・施設や駅周辺のPR動画を作成し、YouTubeなどで発信していきます。

#### ■活用する情報発信ツール

- ・松阪記者クラブへの情報提供、各種SNS(インスタグラム・SNS・YouTube・X(旧Twitterなど)・香肌峡HP・観光みえ・ポスター・チラシなど)

### ⑤ 観光人材の育成

- ・観光客の満足度を高めるサービスを提供させるには、地域の歴史、文化、観光資源等、より専門的な知識を最大限に伝えることができる人材の発掘・育成を進めていく必要があります。また、そのことにより、地域資源の価値を高め、文化の伝承や継承にも繋げていくことが併せて必要です。
- ・インバウンド需要にも対応できるよう、多言語対応のスタッフの育成が必要で

す。

■今後育成していく人材

(観光ガイドボランティア、山岳案内人、カヌー等の自然体験指導員、多言語対応スタッフ)

⑥ 農産物の普及と特産品の開発

- ・農産物や特産品などの生産者グループと連携し、品質を向上させる研修会や指導員の派遣、季節ごとのイベントを実施しながら物産販売スペースの充実に取組みます。
- ・地元産の農産物や特産品を積極的にPRすることで、地域の農業を支援し、本地域の食文化を広めていきます。
- ・専門的な知識や技術の習得のための研修会や講座を開催し、農業に関心を持つ若者や新規就農者を育成することで、高齢化や後継者不足を解消していきます。

■支援する関係者

(農産物生産者、特産品生産グループ、新規就農者、新規起業家)

⑦ 施設の維持管理

- ・建物の長寿命化や経年劣化による、機器の不具合に対応し、施設修繕と機器の更新を計画的に行っていきます。

■更新すべき設備

(温泉ポイラー施設、高圧受電設備、空調機器など)

⑧ 自然環境の保全と景観・美化活動

- ・香肌峡の豊かな自然を守り育てるため、地域と連携して環境保護活動や国道166号沿いの景観の保全及び環境の美化に努めていきます。

■活動内容

(ウェルカムフラワー、道路美化活動など)

## 5. まとめ

全国に道の駅が誕生して30年が経過する中、地方の道の駅は人口の急減、高齢化、地域の担い手の不足など、多くの地域課題を抱えながら『地域創生・観光を加速する拠点』として、その役割が期待されています。

今後も道の駅の多様な可能性を活用し、あらゆる世代が活躍する地域の拠点として、地域団体や関係機関との連携を強化し、地域の課題解決の場として活用していきます。

## 6. 道の駅「飯高駅」活性化ビジョン策定経緯

### (1)道の駅「飯高駅」活性化ビジョン策定委員会の構成

(株)飯高駅(5名)、宮前まちづくり協議会(2名)、いたたか山里協同組合(1名)、地域おこし協力隊(3名)、松阪市役所(2名) 計13名

※事務局は松阪市役所 西部農林水産事務所と飯高地域振興局 地域振興課

### (2)道の駅「飯高駅」活性化ビジョン策定委員会開催概要

開催日	検討内容
令和5年4月～9月	「宿泊施設に関するニーズ調査」を実施
第1回(令和5年5月23日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定スケジュール及び策定委員会の進め方</li> <li>・既存の各計画の確認とポイント</li> <li>・まとめ方の整理について(骨格)</li> </ul>
第2回(令和5年6月20日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状課題の洗い出しについて</li> <li>・意見交換</li> </ul>
第3回(令和5年7月24日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な方策について</li> <li>・活性化ビジョン(素案)の検討</li> <li>・意見交換</li> </ul>
第4回(令和5年8月21日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地見学</li> <li>・活性化ビジョン(素案)の決定</li> </ul>
第5回(令和5年9月14日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換</li> <li>・最終案作成</li> </ul>
第1回検証会(令和6年7月2日)	検証会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度実績</li> <li>・意見交換</li> </ul>

～まだまだ旅の途中！さあどこへ出掛けよう！～

## 道の駅「飯高駅」への交通アクセス



### ◆名古屋・伊勢方面から

最寄り IC … 伊勢自動車道 **松阪 IC** より約 30 km(車で約 40 分)

最寄り IC … 紀勢自動車道 **勢和多気 IC** より約 20km(車で約 30 分)

### ◆大阪・奈良方面から

最寄り IC … 名阪国道 **針 IC** より約 65km(車で約 90 分)

最寄り IC … 南阪奈道路 **葛城 IC** より約 75km(車で約 100 分)

### ◆公共交通機関ご利用の場合

最寄り駅 … JR・近鉄 **松阪駅** より約1時間

松阪駅西口(表)バスターミナル ④番のりば →「道の駅 飯高駅」下車

※ 行き先 三重交通バス「道の駅 飯高駅」または「ホテルスメール」行き







道の駅「飯高駅」活性化ビジョン

令和5年10月策定

令和6年10月更新

編集・発行 松阪市産業文化部 西部農林水産事務所

〒515-1592

三重県松阪市飯高町宮前 180 番地